

水産海洋地域研究集会

北西太平洋に迫り来る国際漁業資源管理の波
-NPFC（北太平洋漁業委員会）対応の現状と課題-

日時：2019年9月26日（木）～27日（金）

場所：国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 講堂

主催：一般社団法人水産海洋学会

コンピーナー：米崎史郎（水産機構）・大島和浩（水産機構 国際水研）・市野川桃子（水産機構 中央水研）

開催趣旨：2015年7月に北太平洋漁業委員会（NPFC：North Pacific Fisheries Commission）が発足し、既に4年が経とうとしている。この委員会は、“北太平洋における公海の漁業資源の保存及び管理に関する条約”に基づいて設置され、日本に初めて事務局（東京海洋大学）を置く地域漁業管理機関である。近年、北西太平洋における我が国の排他的経済水域（EEZ）近傍でのサンマ・マサバ資源を巡る諸外国による漁獲圧の増加、天皇海山海域におけるクサカリツボダイの漁獲量の低迷、また底魚漁業による脆弱な生態系（VME：Vulnerable Marine Ecosystems）への影響軽減のための追加措置の導入などが問題として取り上げられており、我が国に程近い公海域において、国際的な漁業資源管理の波が押し寄せて来ている。これまで、我が国において漁業資源の国際管理と言え、カツオ・まぐろ類などに代表される高度回遊性魚類が対象となっており、その対応はEEZ内の国内漁業資源とは、似て非なるものであったといっても過言ではないだろう。国内のTAC制度で資源・漁業管理を行ってきたサンマ・マサバ資源は国際資源、あるいはストラドリング魚類資源（EEZと公海にまたがる資源）としての対応を迫られることとなり、さらに漁業法改正を受け、国際的にも通用する資源管理システムの高度化に向けた議論がソフト・ハードの双方の観点から急速に進められている。本研究集会では、まず天皇海山海域における底魚漁業によるVMEへの影響に端を発したNPFC設立までの科学的な背景を紹介する。次に、現在資源評価対象種となっているクサカリツボダイやキンメダイなどの底魚類の持続的利用と生態系保全を如何にして両立させていくのか、そして国際漁業資源となったサンマ・マサバの資源評価に向けてどのような問題を抱えているのかについて、個々の調査研究の紹介を通して、国内に広く周知する。さらに、既に国内外において難しい対応を迫られているクロマグロの研究事例を提供するとともに、国際的な場において持続的に漁業を行うための資源・漁業管理への向き合い方について、議論を深めたい。

[第1日目]

- 挨拶： 山下 洋（水産海洋学会長） 13:30-13:35
- 趣旨説明：[NPFC 設立を巡る科学的な背景説明] 米崎史郎（水産機構 本部） 13:35-14:00

I. 底魚資源：クサカリツボダイ・キンメダイ・VME [座長：大島和浩(国際水研)]

- ① 多様な生活史と「順応的管理」：天皇海山における底魚資源管理の現状と課題 澤田紘太（国際水研） 14:00-14:25
- ② 天皇海山海域における生態系調査-低次生産構造と食物網 北村充彰（国際水研） 14:25-14:50

II. 浮魚資源：サンマ・マサバ [座長：米崎史郎（水産機構 本部）]

- ① 沿岸資源から国際資源へ：サンマ資源評価を例に 大島和浩（国際水研） 14:50-15:15
- ② サンマの生態と漁業 富士泰期（国際水研） 15:15-15:40

（休憩） 15:40-15:55

- ③ サンマの資源量調査 巢山 哲（東北水研） 15:55-16:20
- ④ NPFC 資源としてのマサバの評価・管理における現状と課題 市野川桃子（中央水研） 16:20-16:45
- ⑤ オペレーティングモデルを用いた資源評価モデルのコンペ：マサバ太平洋系群への適用 西嶋翔太（中央水研） 16:45-17:10

[第2日目]

III. 国際資源管理の事例 [座長：市野川桃子（中央水研）]

- ① 国際的な資源評価に基づく沿岸漁業管理（太平洋クロマグロ） 福田漠生（国際水研） 09:30-09:55
- ② 国際資源と沿岸資源との相違と課題 境 磨（北水研） 09:55-10:20

総合討論（司会：市野川桃子，パネリスト：大島和浩・高須賀明典（東大農）・高橋素光（水産機構 西水研）・牧野光琢（東大 大気海洋研）・米崎史郎・複数研究機関（予定））

10:20-11:30